

令和 8 年度 新潟県 英語教育改善プラン

児童が「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を実感できる外国語の授業づくりの推進

目標

○英語の学習に前向きな児童を育成する。(R6学調 好き:69.6%、大切:92.2%、分かる:80.2%)

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①児童が英語の学習に前向きである。

(R6学調 好き:69.6%)
(R6学調 大切:92.2%)
(R6学調 分かる:80.2%)

②学習者用デジタル教科書を使って授業を行う学校が増加した。

(県調査 R6:81.2%→R7:82.3%)

未だ改善が必要な点

①専科教員以外の教員による外国語の授業について、参観や協議を行った学校の割合が低下した。

(県調査 R6:43.4%→R7:37.9%)

②小・中学校担当者による指導方法や指導内容に係る情報交換を行う学校が減少した。

(県調査 R6:71.5→R7:65.2%)

2. 要因分析

①②各種研修により、英語担当教員の授業力が向上したと考えられる。さらに、言語活動の充実や学習者用デジタル教科書の活用方法について情報交換できたと考えられる。

①②各学校、各中学校区で、指導方法や評価の方法が確立されてきていると考えられる。また、小規模の学校で外国語を担当する教員が少なく、授業や評価について相談する相手がいない状況が要因であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②「小学校英語専科教員情報交換会」(地区ごと、県で55名)を行う。小学校の実践の優良事例を共有するとともに、教師同士の横のつながりを作る。今年度は開催数を1回増やし、小中接続の優良事例を共有するとともに、自校での小中接続の取組の一層の充実を図る。

①「小学校外国語実践講座」(64名参加)で大学教授を講師として招き、言語活動の更なる充実や授業改善についての講義を行い、教師の意識向上と授業改善を図る。

①②「新潟県学校教育の重点」に基づき、児童が外国語の授業や言語活動で「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を実感できるよう、言語活動の在り方について研修会等で周知する。

参考URL、QRコード(新潟県学校教育の重点):

https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/life/652612_2612055_misc.pdf

○一定の英語力を有する教師を採用できるよう、TOEICやTOEFL iBT、実用英語技能検定等で一定の成績を有する場合に、教員採用選考検査の一次検査で加点を行う。



令和 8 年度 新潟県 英語教育改善プラン

生徒が「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を実感し、英語力を高められる授業づくりの推進

○CEFR A1（英検 3 級程度）の英語力を有する生徒の割合を55%にする。（R7:37.4%⇒R8:55%）

目標

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
（パフォーマンステスト含む） （AIを除く）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR B2レベル相当以上を取得している英語担当教員の割合が増加した。

（英語教育実施状況調査
R4:44.1%⇒R5:49.2%
⇒R6:49.8%⇒R7:57.2%）

①CEFR A1レベル相当の資格を取得しているまたは有すると思われる生徒の割合が減少した。

（英語教育実施状況調査
R6:47.8%⇒R7:37.4%）

②授業において、言語活動を通して指導することやALTの参画、ICTの活用に課題がある。

（R6、R7県指導主事による全校訪問の見取りより）

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①過去 4 年間一貫して割合は上昇しており、英語担当教員の意識が高く、自身の英語力向上に努めていることが伺える。

①過去 3 年間の英検IBAの結果から、中学 2 年時に英語検定 4 級程度の英語力が十分に身に付いていないという課題がある。それが、中学 3 年時の英語力に影響していると考えられる。

②生徒の言語活動を支える、知識・技能の習得が不十分である。また、授業におけるALTの参画、ICT活用に差がある。

（R5学調 知識・技能 平均正答率
全国比 -5.5）

3. 目標を達成するための施策・事業

①②県で作成した学習教材「にいがた学びチャレンジ」の学習シートと評価問題の活用により、各校で思考力、判断力、表現力等の育成を図る。併せて、知識・技能の実態把握と習得を目的とした県作成の基礎定着問題を実施し、英語力の向上に努める。

①②令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果と合わせて分析し、市町村教育委員会と連携しながら重点支援地域（校）の授業改善や小中接続に係る指導・支援を行う。また、英語力の高い県の取組を参考にしながら、ALTの授業への参画、ICT活用について、中学校英語科主任研修等を通じて周知や指導をし、授業改善を図っていく。

①②全県学力向上対策会議を開催し、市町村教育委員会と連携し、英語を含めた全教科の学力の向上及び家庭学習の充実・習慣化を図る。

参考URL、QRコード（新潟県学校教育の重点）：

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kyoiku/1194624921508.html>



令和 8 年度 新潟県 英語教育改善プラン

目標

授業中の言語活動の一層の充実により、生徒の英語力を向上させる。

- 英語の授業における教師の英語による発話が50%以上の学校の割合を60%にする。(R7:24.8%⇒R8:60%)
- CEFR A2 (英検準2級程度) の英語力を有する生徒の割合を55%にする。(R7:52.3%⇒R8:55%)

CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6: A2以上 49.1%、B1以上 19.2% ⇒ R7: A2以上 52.3%、B1以上 23.6%)

☒言語活動 ☐指導と評価の一体化 ☒教師の英語力・指導力 ☐校種間連携 ☐ALTの参画 ☐ICTの活用 ☐AIの活用 ☐その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ① CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加。
(R6:19.2%⇒R7:23.6%)
- ②CEFR B2レベル相当以上を取得している教師の割合が増加。
(R6:78.2%⇒R7:83.4%)

- ①英語の授業における教師の英語による発話が50%以上の学校の割合が、前年度から減少。
(R6:33.1%⇒R7:24.8%)
- ②CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加したものの、目標値には届かず。
(R6:49.1%⇒R7:52.3%)

2. 要因分析

- ①AIの活用により、話す・書く活動の量が増えたこと、研修や資格取得等により、教師の英語力が向上したことによるものと考えられる。
- ②教員を対象とした英語資格・検定試験の特別受験制度について書面や各種研修会で周知し、受験機会が広がったことが一因と考えられる。

- ①生徒の英語力低下への懸念や教員の英語使用への不安から、説明中心の授業が増えたと考えられる。
- ②導入、インプット、アウトプット、まとめといった授業の構造化は進みつつあるものの、A2レベルに必要な基本技能を体系的に扱うには、依然として十分とは言えない状況である。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①発信力育成に向けた授業改善の推進
 - ・CAN-DOリストを活用し、到達目標を明確化する。
 - ・AIを活用したグローバル人材育成のための英語教育強化事業などとおして発信型言語活動を重視した授業改善を推進し、生徒の英語による発信力の向上を図る。
 - ・AI教材を活用した個別最適な学習を推進するとともに、海外の生徒との交流を実施する学校の取組を促進し、生徒の実践的な英語運用能力の向上を図る。
- ②外部検定試験等の受験の推進
 - 書面での案内に加えて、年に数回実施する英語教育に関する研修において、助成制度等を利用するよう引き続き促していく。
- ①言語活動の充実の推進
 - 生徒の英語を学ぶ意欲を上げるために、授業の活動構造を工夫して教師の英語による発話を増やす取組の好事例を英語科研究会等において紹介し、全県の授業改善を推進する。
- ②AIの活用、好事例の共有
 - ・AIを活用したグローバル人材育成のための英語教育強化事業のモデル校での先進的な取組や、教科研究員による実践研究の成果を全県的に共有・普及する体制を強化する。これらの成果を教科研究協議会等で体系的に発信し、授業改善に直結する形で言語活動の質と量の向上を図る。
 - ・教師が負担を感じずに実施できる効果的な言語活動の具体例を提示し、どの学校でも取り組みやすい実践モデルを提案する。

新潟県教育委員会

		2023		2024		2025		2026		2027		
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		60	45.3	50	49.1	55	52.3	55		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		30	16.4	20	19.2	25	23.6	25		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		80	45.8	60	47.4	65		70		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		70	44.5	60	41.5	65		70		80	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	93.2	100		100		100		100	
		公表(%)	90	48.9	60		70		80		90	
		達成状況の把握(%)	90	46.6	60		70		80		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		60	83.5	85	78.2	85	83.4	90		90	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		75	28.8	50	33.1	60	24.8	60		70	

		2023		2024		2025		2026		2027		
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		60	49.2	50	47.8	55	37.4	55		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		80	64.9	80		80		80		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		100	85.1	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	99.4	100		100		100		100	
		公表(%)	90	71.7	90		90		90		90	
		達成状況の把握(%)	90	83.2	90		90		90		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		60	49.2	50	49.8	55	57.2	60		60	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		80	54.6	80		80		80		80	

		2023		2024		2025		2026		2027		
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	89.6	100		100		100		100	
		公表(%)	80	69.1	80		80		80		80	
		達成状況の把握(%)	90	81.3	90		90		90		90	